

水害・台風などの災害に備えて

～利用者・職員を守るために～

福祉防災コミュニティ協会
副理事長 高橋 洋

三つの大事なこと

- ▶ 職員の防災教育

（リーダーから個々の職員、正規から契約、委託先まで）

- ▶ 避難確保計画

（水害＝大雨、河川氾濫。土砂災害等々）

- ▶ BCP

（いろいろな物の事前準備や、関係性の事前構築等々）

市民としての防災教育：防災の基本

わが身を守る、家族などを守る

住まう場所の選定

籠城作戦の準備

必用により避難行動を準備

職業人としての防災教育：施設職員として

（人、物、金、情報の活用）

利用者や職員を守るための事前準備

災害が発生した後の適切な行動の学習

職員の防災教育



▶ 事業所の所在地の風水害の危険性把握

自治体の防災マップ、ハザードマップなどによる

（河川氾濫、土砂災害、高潮等々各種の危険性）

一部の災害については計画が義務付けられているが、いろいろな災害被害が想定されるので、ひとつとおり検討しておく

▶ 避難場所、避難方法を決めたり、必要な施設整備を行う

避難確保計画

宮城県山元町
養護老人ホームの例（津波被害）



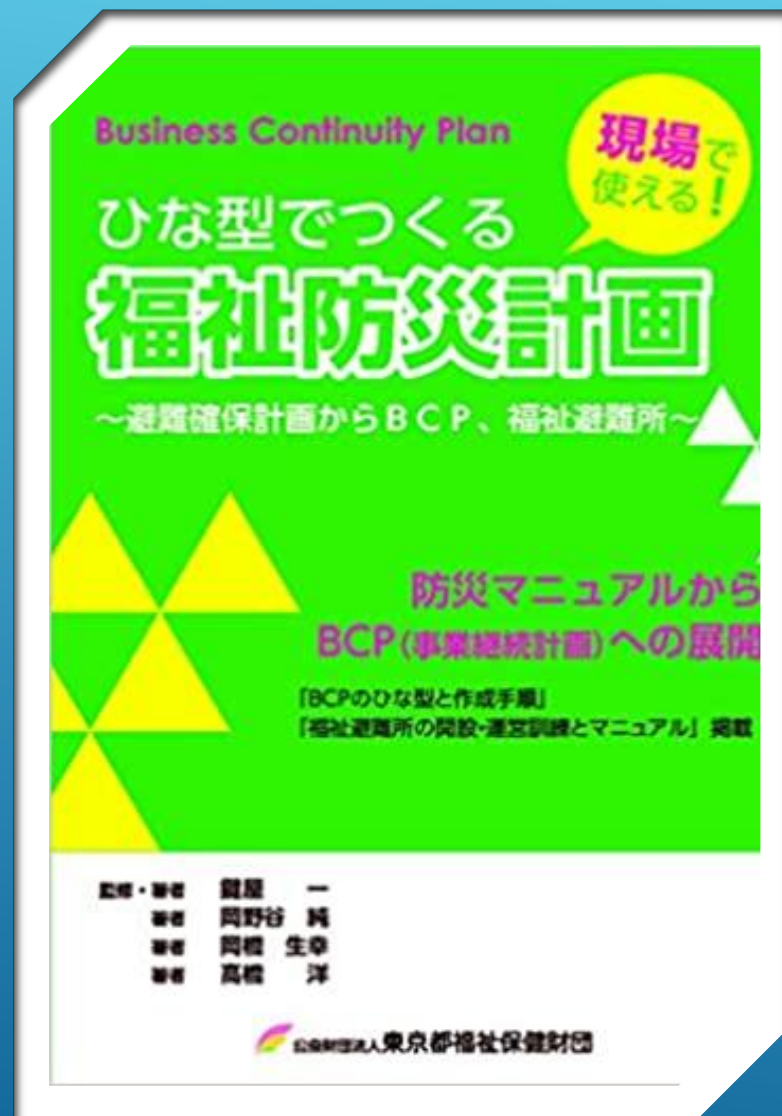
窓がすべて破られた楽ん楽ん
洪水の跡がくっきりと見える
平成28年10月15日 鍵屋氏撮影

水害などで、犠牲者が出た例

なぜBCPなのか！！

- ▶ 福祉施設は、それが機能していないと困る人がいる
- ▶ 災害などの大変な状況であっても、できるだけ困る人がでないように
- ▶ 事前準備できるもの、事を行っておき、実際にそのような事態が起きた場合には、やることを絞り込む、集中的に資源（人、物）を運用して乗り切るなどの方法を考えて、実行できるようにしておく

BCP（業務継続計画）



<参考図書の紹介>

ひな型で作る福祉防災計画 ～避難確保計画からBCP、福祉避難所～

防災訓練は、 どう取り組むのか

- ▶ **実際に近い訓練を、段階を踏んで**
小学生が、いっぺんに大学生にはなれない
- ▶ **「形だけ」の訓練でも、本番で役立つものとそうでないものが**
通信訓練、手順確認訓練などは役立つ
(それだけでは不足だが・・・)
- ▶ **実際の災害対応は、ある種の「防災訓練」**
被害がほとんど発生しない「災害」は「防災訓練」
よその災害の応援は、下手な訓練より勉強になる
- ▶ **各種の「警告」が出た時に、「防災訓練」
のつもりで対応をする**



いろいろな段階の防災訓練

小災害と未満は「防災訓練」

- ▶ 被害がとても少なかった災害や、災害が起きそうだったので対処した経験は、全てある種の「防災訓練」
- ▶ ほとんど、何も起きなくて良かったで終わらせずに、反省事項（良かったこと、悪かったこと）を共有していけると、次の災害の時に役立つ
- ▶ 同じ災害はあまりないことを考えながら、教訓を生かそう

目前の災害避難行動と評価

- ▶ ほとんど何もできなかった⇒×
- ▶ やったが間に合わなかった⇒▲
- ▶ 出来る限りの事前避難⇒○
- ▶ 完全に事前避難完了⇒◎

「本番」が目前に来た時の避難と評価

「理想論」かもしれないが、決定的なこととは、長期的計画による取組が必要

▶立地

そもそも大雨、洪水、土砂災害、津波等の影響を受けにくい土地か

▶建物の状況

同一施設内で、垂直避難が可能か

電気が停止するとエレベータが使えない。昇降用のスロープはあるか



付録：非常災害 停電時の電源確保

▶ 小電力の確保：小型発電機

灯火、通信機器類、扇風機？

▶ ある程度の電力の確保：大型発電機、小規模蓄電設備、VTHなど

灯火、通信機器、扇風機、その他の電気設備（大電力は難しい）

▶ 十分な電力の確保：太陽光、蓄電設備、電気自動車＋給電機

通常の電力使用に近い

（限界はある）

水害から、利用者・職員を守るために、
ハンドブックを活用しましょう！！